
履修要項 副専攻

副 専 攻 制 度
日本語日本文学副専攻
史 学 副 専 攻
人 間 関 係 副 専 攻
国 際 交 流 副 専 攻
哲 学 副 専 攻
教 育 学 副 専 攻
初 等 教 育 学 副 専 攻
心 理 学 副 専 攻
英 語 英 文 学 副 専 攻
多 文 化 宗 教 共 生 副 専 攻
ジ ェ ン ダ ー 学 副 専 攻
ボ ラ ン テ ィ ア 研 究 副 専 攻

副専攻制度

●副専攻制度とは

副専攻制度は、平成16(2004)年度から実施されたもので、2年次から所属する学科専攻を主専攻(メジャー)として学びつつ、もうひとつの専攻を副専攻(マイナー)として履修できるシステムです。

本学の教育システムは、基礎課程の1年間で多様に学ぶ機会を経験し、2年次にそれぞれ学科専攻に進み、3年間の専攻課程で研究テーマを選び、深く追求するとともに広く関連科目を学修していくことをめざしています。しかし、近年の世界・社会の状況と価値観の大きな変動に対しては、関連科目を個々の学生が任意に選択して学修する従来の方法だけでは必ずしも十分に対応できないことも明らかになってきました。そこで、この関連科目をより体系的に学ぶという観点を発展させて、主専攻に加えてもうひとつの専攻を系統的に学修できるカリキュラムを副専攻制度としてまとめることで、現代社会が求めている、複眼的な視野と多面的な能力を養う機会となることが期待されています。

副専攻のプランには、既存の専攻が提供する副専攻と、学科横断的に設定される副専攻との二種類があります。副専攻を履修する学生は、所属する専攻コース以外で開設される科目をより体系的に学ぶこととなります。なお、副専攻の履修は卒業要件ではありません。したがって、他専攻開講科目を自由に選択して学修していく方法も保証されています。

●履修上の注意

以下、副専攻の履修方法、各副専攻の定員、修了要件、標準カリキュラム等について説明します。各副専攻コースの開講科目については、『開講科目一覧』を参照してください。

- (1) 副専攻の履修開始は、一部のコースを除き、2年次生からとなります。
- (2) 既に他の副専攻を履修している場合、副専攻コースを途中で変更したり、新たに別の副専攻コースを履修することはできません。
- (3) **副専攻の履修を取り止める場合、届け出が必要**です。副専攻の履修を取り止める場合は、各期の履修登録最終日までに教務課に申し出て、履修中止の手続きをしてください。履修を取り止めるのは本人の自由に任されていますが、履修中止の届出をした後に履修を再開することはできません。また、新たに別の副専攻コースを履修することもできません。
- (4) 学科専攻副専攻コースの副専攻指定科目のうち、副専攻修了要件単位に含めることができる科目は、全学共通科目総合現代教養指定領域の一部の科目と、初等教育学副専攻コースの一部の科目を除き、関連分野の単位として修得したもののみです。分野系列変更が可能な科目について、関連分野以外に分野系列を変更した場合、副専攻の修了要件単位に含めることができなくなります。また、横断的副専攻コースの副専攻指定科目のうち、自分の所属専攻が開講している科目は、専攻分野の単位となるため、原則として副専攻の修了要件単位に含めることはできません。ただし、ボランティア研究副専攻コースでは、修了要件単位のうち、専攻分野の単位を4単位まで含めることが認められています。
- (5) 副専攻履修希望者は、後述の「登録スケジュール」に従い、副専攻ガイダンスに出席し、副専攻登録希望調査票を教務課に提出してください。定員を設定している副専攻コースでは、定員を上回る登録希望者があった場合は選抜を行って履修登録者を決定します。
- (6) 各コースの修了要件を満たした者については、各コースを設定している学科専攻等の承認と教授会の議を経たのち、卒業時に副専攻修了証が授与されます。
- (8) 履修中の副専攻コース名は、成績証明書(和文)・成績通知書および学生時間割表に記載されます。卒業後は、副専攻修了判定で合格の判定を得た者に限り、成績証明書(和文)に修了した副専攻コース名が記載されます。
- (9) 各副専攻コースの指定科目の中で、副専攻コース履修開始前に単位修得した科目の単位を副専攻の修了要件単位として算入することができるかどうかは、各副専攻コースの履修要項の「履修開始前の単位」を参照してください。

●登録スケジュール

2008年度に副専攻の登録を希望する者は、次のスケジュールに従ってください。

日程	事項
4月7日(月)	副専攻ガイダンス
～4月8日(火)	副専攻登録希望調査票を教務課へ提出
4月9日(水)	選抜のなかった副専攻について、副専攻登録 確定者リスト(学籍番号)掲示
4月11日(金)	選抜が行われた副専攻について、副専攻登録 確定者リスト(学籍番号)掲示

※副専攻コース別ガイダンスの日程については別途掲示

●副専攻一覧

▼学科専攻が提供する副専攻コース

開講学科専攻	副専攻コース名称	定員	履修開始学年
日本語日本文学	日本語日本文学副専攻	なし	2年次または3年次
史学	史学副専攻 日本史コース 東洋史コース 西洋史コース	8名 4名 6名	2年次
人間関係	人間関係副専攻	30名	2年次
国際交流	国際交流副専攻	なし	2年次または3年次
哲学	哲学副専攻	なし	2年次または3年次
教育学	教育学副専攻	なし	2年次または3年次
初等教育学	初等教育学副専攻 小学校コース 幼稚園コース		新規募集停止 [※]
心理学	心理学副専攻	14名	2年次
英語英文学	英語英文学副専攻 英語学・英語教育学分野 英米文学分野 メディア・コミュニケーション分野	6名 8名 6名	2年次

※教職課程内に初等教員特別プログラムが開設されたことにもない、小学校教諭二種免許状または幼稚園教諭二種免許状取得を目的とした「初等教育学副専攻」は、平成18(2006)年度の募集をもって募集停止となりました。

▼学科横断的に設定される副専攻コース

開講学科専攻	副専攻コース名称	定員	履修開始学年
	多文化宗教共生	なし	2年次
	ジェンダー学	なし	2年次または3年次
	ボランティア研究	20名	2年次または3年次

日本語日本文学副専攻

- 修了要件 日本語日本文学副専攻の修了要件は次のとおりです。
 - 日本語日本文学副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、合計 20 単位以上修得していること

- 副専攻指定科目 日本語日本文学副専攻の指定科目は、『開講科目一覧』の副専攻欄に「C1」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

なお、日本語日本文学専攻開講科目のうち、**指定科目の対象外**となる科目は、次のとおりです。

 - ◎開講されたすべての年度において対象外の科目
 - 研究法実習Ⅰ、研究法実習Ⅱ、研究法実習Ⅲ、研究法実習Ⅳ、研究法実習Ⅴ、研究法実習Ⅵ、研究法実習Ⅶ、研究法実習Ⅷ
 - 日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅱ、日本語教育実習
 - 文章表現法、日本語の音声、日本語の音声Ⅰ、日本語の音声Ⅱ、書道、書道Ⅰ、書道Ⅱ
 - 日本語の文法、対照言語学、中国文学概論、文献情報処理入門
 - ◎2007年度のみ対象外の科目
 - 日本語教育入門

- 履修開始前の単位 副専攻履修開始前に履修した日本語日本文学副専攻指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

- 履修上の注意 1. 演習科目は、3・4年次に履修してください。
2. 人数制限のある科目（演習科目、文芸創作入門）の履修希望者は、4月オリエンテーション期間中の所定の期日までに日本語日本文学科研究室で手続きを済ませてください。なお、希望者が所定の人数を超えた場合は、専攻生を優先とします。

史学副専攻

●修了要件

史学副専攻の修了要件は、各コース別に次のとおりです。

1. 日本史コース

- 史学副専攻日本史コースの指定科目の中から、関連分野の単位として、合計 20 単位以上修得していること

2. 東洋史コース

- 次の演習科目の中から最低 4 単位修得していること

▼演習科目

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
東洋史演習Ⅰ－1	4		東洋史演習Ⅱ－1(1)	2	廃止
東洋史演習Ⅰ－2	4		東洋史演習Ⅱ－1(2)	2	廃止
東洋史演習Ⅱ－1	4		東洋史演習Ⅱ－2(1)	2	廃止
東洋史演習Ⅱ－2	4		東洋史演習Ⅱ－2(2)	2	廃止

- 史学副専攻東洋史コースの指定科目の中から上記演習科目を含んで、関連分野の単位として、合計 20 単位以上修得していること

3. 西洋史コース

- 史学副専攻西洋史コースの指定科目の中から、関連分野の単位として、合計 20 単位以上修得していること

●副専攻指定科目

史学副専攻各コースの指定科目は、『開講科目一覧』の副専攻欄に「D1」（日本史コース）、「D2」（東洋史コース）、「D3」（西洋史コース）と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

なお、史学専攻開講科目のうち、**指定科目の対象外**となる科目は、次のとおりです。

1. 日本史コース

◎開講されたすべての年度において対象外の科目

国際関係史Ⅰ、科学史、外国史概説Ⅰ、外国史概説Ⅱ、外国史概説Ⅰ－1、
外国史概説Ⅰ－2、外国史概説Ⅱ－1、外国史概説Ⅱ－2、外国史概説Ⅱ－3

日本近現代史Ⅰ

日本史演習Ⅰ、日本史演習Ⅱの各科目、日本史演習Ⅲの各科目

東洋史系列の科目（科目コード左 2 文字＝DD、DE）

西洋史系列の科目（科目コード左 2 文字＝DF、DG）

史学関連科目（科目コード左 2 文字＝DJ）、博物館実習

◎2006 年度以降対象外の科目：日本史概説Ⅱ

2. 東洋史コース

◎開講されたすべての年度において対象外の科目

古文獻入門、国際関係史Ⅰ、国際関係史Ⅱ、科学史、

日本史概説Ⅰ、日本史概説Ⅱ、

外国史概説Ⅱ、外国史概説Ⅱ－1、外国史概説Ⅱ－2、外国史概説Ⅱ－3

東洋史演習Ⅲ－1(1)、東洋史演習Ⅲ－1(2)、

東洋史演習Ⅲ－2(1)、東洋史演習Ⅲ－2(2)

東洋史演習Ⅲ－1、東洋史演習Ⅲ－2

日本史系列の科目（科目コード左 2 文字＝DB、DC）

西洋史系列の科目（科目コード左 2 文字＝DF、DG）

史学副専攻

史学関連科目（科目コード左2文字＝DJ）、博物館実習

3. 西洋史コース

◎開講されたすべての年度において対象外の科目

古文入門、国際関係史Ⅱ、日本史概説Ⅰ、日本史概説Ⅱ、外国史概説Ⅰ

外国史概説Ⅰ－1、外国史概説Ⅰ－2

西洋史文献講読Ⅰ(1)、西洋史文献講読Ⅰ(2)、

西洋史演習Ⅰの各科目、西洋史演習Ⅱ・Ⅲの各科目

日本史系列の科目（科目コード左2文字＝DB、DC）

東洋史系列の科目（科目コード左2文字＝DD、DE）

史学関連科目（科目コード左2文字＝DJ）、博物館実習

●履修開始前の単位 副専攻履修開始前に履修した史学副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できません。

●履修上の注意

- (1) 履修コース（日本史コース、東洋史コース、西洋史コース）にかかわらず、史学副専攻生が履修可能な科目はすべて履修できます。ただし、「副専攻の対象外科目」に挙げた科目については、副専攻の修了単位としては認められません。
- (2) 修了のための最低必要単位数は20単位ですが、30単位以上修得することを推奨します。
- (3) 東洋史コース履修者の演習科目は**年次指定科目**です。
東洋史演習Ⅰ：2年次指定科目
東洋史演習Ⅱ：3年次指定科目

人間関係副専攻

●修了要件

人間関係副専攻の修了要件は、履修開始年度別に次のとおりです。

1. 平成 16(2004) 年度履修開始者

- 次の演習科目の中から 2 単位修得していること

授 業 科 目	単 位	備 考
人間関係副専攻演習 1	2	
人間関係副専攻演習 2	2	

- 次の基礎科目の中から最低 8 単位修得していること（廃止科目については後述の代替科目から履修することも可）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
人格心理学	4	廃止	家族社会学 2	2	
社会心理学	4	廃止	職業社会学	4	廃止
社会学	4		文化人類学	4	廃止
家族社会学 1	2		比較文化宗教学	4	廃止

- 上記に挙げた演習科目・基礎科目を除く人間関係副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、合計 10 単位以上修得していること

2. 平成 17(2005) 年度履修開始者

- 次の演習科目の中から 2 単位修得していること

授 業 科 目	単 位	備 考
人間関係副専攻演習 1	2	
人間関係副専攻演習 2	2	

- 次の基礎科目の中から最低 8 単位修得していること（廃止科目については後述の代替科目から履修することも可）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
人格心理学	4	廃止	職業社会学	4	廃止
社会心理学	4	廃止	文化人類学	4	廃止
家族社会学 1	2		比較文化宗教学	4	廃止
家族社会学 2	2				

- 上記に挙げた演習科目・基礎科目を除く人間関係副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、合計 10 単位以上修得していること

3. 平成 18(2006) 年度以降履修開始者

- 次の演習科目の中から 2 単位修得していること

授 業 科 目	単 位	備 考
人間関係副専攻演習 1	2	
人間関係副専攻演習 2	2	

- 次の基礎科目の中から最低 8 単位修得していること

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
対人社会心理学 1	2		職業社会学 1	2	
マスコミ社会心理学 1	2		文化人類学 1	2	
人格心理学 1	2		比較文化宗教学 1	2	
家族社会学 1	2				

- 上記に挙げた演習科目・基礎科目を除く人間関係副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、合計 10 単位以上修得していること

人間関係副専攻

●基礎科目の代替

平成 16(2004) 年度および平成 17(2005) 年度履修開始者は、すでに廃止科目となっている基礎科目については、次ページに指定した代替科目の修得をもって、これに充てることができます。

▼基礎科目の代替指定科目 ◇内は単位数

基礎科目	2006 年度 代替指定科目	2007・2008 年度 代替指定科目
社会心理学	対人社会心理学 1 <2> 対人社会心理学 2 <2>	対人社会心理学 1 <2> 社会統計学 <2>
人格心理学	人格心理学 1 <2> 人格心理学 2 <2>	人格心理学 1 <2> 質的調査法 1 <2>
職業社会学	職業社会学 1 <2> 職業社会学 2 <2>	職業社会学 1 <2> 職業社会学 2 <2>
文化人類学	文化人類学 1 <2> 文化人類学 2 <2>	文化人類学 1 <2> 質的調査法 2 <2>
比較文化宗教学	比較文化宗教学 1 <2> 比較文化宗教学 2 <2>	比較文化宗教学 1 <2> 比較文化宗教学 2 <2>

●副専攻指定科目

人間関係副専攻の指定科目は、『開講科目一覧』の副専攻欄に「E1」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

なお、人間関係専攻開講科目のうち、**指定科目の対象外**となる科目は、次のとおりです。

人間関係共通演習、社会心理学演習 1、社会心理学演習 2、対人社会心理学演習 1、対人社会心理学演習 2、マスコミ社会心理学演習 1、マスコミ社会心理学演習 2、人格心理学演習 1、人格心理学演習 2、社会学演習 1、社会学演習 2、家族社会学演習 1、家族社会学演習 2、職業社会学演習 1、職業社会学演習 2、文化人類学演習 1、文化人類学演習 2、比較文化宗教学演習 1、比較文化宗教学演習 2、社会心理学研究実習、社会学方法論 3、社会学方法論 4、社会学方法論 5、データ分析の基礎、多変量解析法、社会調査実習 1、社会調査実習 2、社会調査実習 3

●履修開始前の単位

副専攻履修開始前に履修した人間関係副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

●履修上の注意

- (1) 基礎科目の標準履修年次は 2 年次です。
- (2) 演習科目の標準履修年次は 3 年次です。
- (3) 基礎科目の代替指定科目のうち代替として履修した科目以外の修得単位は、演習科目・基礎科目を除いて修得しなければならない 10 単位に算入することができます。

国際交流副専攻

- 修了要件 国際交流副専攻の修了要件は次のとおりです。
 - 国際交流副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、合計 20 単位以上修得していること

- 副専攻指定科目 国際交流副専攻の指定科目は、『開講科目一覧』の副専攻欄に「G1」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

なお、国際交流専攻開講科目のうち、指定科目の対象外となる科目は、次のとおりです。

 - ◎ 2005 年度以前対象外の科目
 - 国際交流概論
 - 演習 I (1)・(2) 科目
 - ※ただし、国際経済演習、情報科学演習、東南アジア社会文化演習、フランス文化演習、ドイツ社会文化演習、中国言語文化演習、日欧思想比較演習を除く
 - 演習 II (1)・(2) 科目
 - ◎ 2006 年度以降対象外の科目
 - 国際交流概論
 - 演習 I (1)・(2) 科目
 - 演習 II (1)・(2) 科目
 - 英語コミュニケーション I (1)・(2)
 - 英語コミュニケーション II (1)・(2)

- 履修開始前の単位 副専攻履修開始前に履修した国際交流専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

- 履修上の注意
 - (1) 副専攻履修にあたっては、関心のある領域の専任教員に相談のうえ、その指導のもとに履修してください。
 - (2) 人数制限のある科目は専攻生を優先します。

哲学副専攻

●修了要件

哲学副専攻の修了要件は次のとおりです。

- 哲学専攻開講の演習科目（哲学特殊演習を除く）の中から最低4単位修得していること

▼演習科目

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
哲学演習Ⅰ	4		日本思想史学演習Ⅰ	4	
哲学演習Ⅱ	4		日本思想史学演習Ⅱ	4	
哲学演習Ⅲ	4		美学・芸術学演習Ⅰ	4	
哲学演習Ⅳ	4		美学・芸術学演習Ⅱ	4	
哲学演習Ⅴ	4		美学・芸術学演習Ⅲ	4	
哲学演習Ⅵ-1	2		美学・芸術学演習Ⅳ	4	
哲学演習Ⅵ-2	2		キリスト教学演習Ⅰ	4	
哲学史演習Ⅰ	4		キリスト教学演習Ⅱ	4	
哲学史演習Ⅱ	4		キリスト教学演習Ⅲ	4	
哲学史演習Ⅲ	4		キリスト教学演習Ⅳ	4	
倫理学演習Ⅰ	4		美学演習	4	廃止
倫理学演習Ⅱ	4		芸術学演習	4	廃止
倫理学演習Ⅲ	4	新設	東洋美術史演習	4	廃止

- 哲学副専攻の指定科目の中から上記演習科目を含んで、関連分野の単位として、合計20単位以上修得していること

●副専攻指定科目

哲学副専攻の指定科目は、『開講科目一覧』の副専攻欄に「HI」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

なお、哲学専攻開講科目のうち、**指定科目の対象外**となる科目は、次のとおりです。

哲学入門、

哲学特殊演習Ⅰ、哲学特殊演習Ⅱ、哲学特殊演習Ⅲ、哲学特殊演習Ⅳ、哲学特殊演習Ⅴ、哲学特殊演習Ⅵ、哲学特殊演習Ⅶ

日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、

キリスト教美術、キリスト教音楽、キリスト教思想史Ⅰ、キリスト教思想史Ⅱ、

ギリシア語Ⅰ、ギリシア語Ⅱ、ラテン語Ⅰ、ラテン語Ⅱ

●履修開始前の単位

副専攻履修開始前に履修した哲学専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できません。

●履修上の注意

副専攻修了の最低必要単位数は20単位ですが、30単位以上修得することを推奨します。

教育学副専攻

- 修了要件 教育学副専攻の修了要件は、教育学副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、次の要件を満たすよう修得していることです。
- 教育学副専攻の下記の指定科目について、定められた履修要件を満たすように修得していること
 - 教育学副専攻の下記の指定科目の中から、関連分野の単位として、合計 20 単位以上修得していること（下記の表の履修要件に記載された必修・選択必修の最低必要単位数の合計は 18 単位のため、さらに少なくとも 2 単位を下記の表に挙げた科目から修得する必要がある）

科目群名	科目名	◇内は単位	履修要件
●必修			
教育の基礎理論	教育学概論 <4>		左の科目を修得していること
●選択必修			
教育の理念・思想・歴史	教育哲学 2 <2> 西洋教育史 2 <2> 日本教育史 1 <2> 日本教育史 2 <2> 日本教育史 <4> 西洋教育史 <4> 西洋教育運動史 <2>		左の科目群から最低 3 科目 8 単位修得していること
教育の社会的・制度的・経営的事項	教育社会学概論 1 <2> 教育社会学概論 2 <2> 教育行政学 <4> 教育行政学 2 <2> 生涯学習概論 <2> 比較教育学 <4> 比較教育学特講 <2>		
発達と学習の過程	教育心理学 <2> ★発達心理学 1 <2> ★発達心理学 2		左の科目群から最低 2 科目 4 単位修得していること
教育の内容・方法	教育課程方法論 <2> 教育方法 <2>		
教育学の入門	教育学入門 <2>		
教育学特講	教育学特講 1 <2> 教育学特講 2 <2> 教育学特講 8 <2> 教育学特講 9 <2>		
総合演習	人間学習原論〔総合演習〕<2> 人間学習 1〔総合演習〕<2> 人間学習 2〔総合演習〕<2> 人間学習 3〔総合演習〕<2> 人間学習 4〔総合演習〕<2> 人間学習 5〔総合演習〕<2> 人間学習 6〔総合演習〕<2> 人間学習 7〔総合演習〕<2> 人間学習 8〔総合演習〕<2> 人間学習 9〔総合演習〕<2> 人間学習 10〔総合演習〕<2> 人間学習 11〔総合演習〕<2> 人間学習 12〔総合演習〕<2>		左の科目群から最低 2 単位修得していること

★：心理学専攻開講科目のため、心理学専攻生は副専攻の単位に算入することはできない

- 副専攻指定科目 教育学副専攻の各分野の指定科目は、『開講科目一覧』の副専攻欄に「J1」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。
- なお、指定科目のうち、次の科目は副専攻修了要件単位に含まれません。
- 教育工学 <2>、教育情報学 <2>、視聴覚教育 1 <2>、視聴覚教育 2 <2>、教育学演習 1 <2>、教育学演習 2 <2>、教育音楽地誌 <2>、健康社会学 <2>
- 履修開始前の単位 副専攻履修開始前に履修した教育学副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できません。
- 履修上の注意 (1)「教育学演習 1」「教育学演習 2」は、教育学・初等教育学専攻生に限定されていますが、副専攻生に限ってはそれぞれ次の条件を満たす場合、受け入れることがあります。

教育学副専攻

- ・教育学演習 1

教育学・初等教育学専攻にとっての2年次の必修に準ずる扱いの科目です。当該年度の教育学・初等教育学専攻の2年次生が66名以下であれば、その人数に応じて副専攻生を受け入れることができます。

- ・教育学演習 2

教育学・初等教育学専攻にとっての3年次の必修科目です。当該年度の教育学・初等教育学専攻の3年次生のゼミ分け決定後、定員に余裕のあるクラス（概ね12名未満）のみ、その人数に応じて副専攻生を受け入れることができます。

(2) 教育学副専攻では、小学校および幼稚園の教員免許状取得のための科目の履修はできません。

初等教育学副専攻（平成19年度新規募集停止）

●修了要件

初等教育学副専攻の修了要件は、各コース別に次のとおりです。

1. 小学校コース

- 小学校教諭二種普通免許状の取得要件をもってその修了要件とする（小学校コース副専攻指定科目から、合計46単位以上を修得する）

2. 幼稚園コース

- 幼稚園教諭二種普通免許状の取得要件をもってその修了要件とする（幼稚園コース副専攻指定科目から、合計44単位以上を修得する）

●履修の方法

各コースのカリキュラム表に従って履修してください。

1. 小学校コース

科目群名	科目名	◇内は単位	履修方法
●必修			
教育の基礎理論	教育学概論 <4>		左の必修科目をすべて修得すること (計20単位)
道徳、特別活動の指導法	道徳教育の研究 <2> 特別活動 <2>		
生徒指導・教育相談	生徒指導[含進路指導] <2> 教育相談 <2>		
教職の意義等	★教職入門 <2>		
教育実習	★教育実習指導2(小学校) <1> ★教育実習指導5(小学校) <1> ★教育実習3 <2> ★教育実習4 <2>		
●選択必修			
教育の理念・思想・歴史	教育哲学2 <2> 西洋教育史2 <2> 日本教育史1 <2> 日本教育史2 <2> 日本教育史4 <4> 西洋教育史 <4> 西洋教育運動史 <2> ★教育原理 <2>		左の5つの科目群それぞれから最低1科目修得すること 左の5つの科目群から最低10単位修得すること
教育の社会的・制度的・経営的事項	教育社会学概論1 <2> 教育社会学概論2 <2> 教育行政学 <4> 教育行政学2 <2> ★教育経営 <2>		
発達と学習の過程	教育心理学 <2> 発達心理学1 <2>		
教育の方法	教育方法 <2> 教育メディア論 <2> 教育情報学 <2> メディア教材開発 <2>		
総合演習	人間学習原論[総合演習] <2> 人間学習1[総合演習]～人間学習12[総合演習] <各2>		
各教科の指導法	★国語科教育法[小学校] <2> ★社会科教育法[小学校] <2> ★算数科教育法 <2> ★理科教育法 <2> ★生活科教育法 <2> ★音楽科教育法 <2> ★図画工作科教育法 <2> ★家庭科教育法 <2> ★体育科教育法 <2>		左の科目群から音楽科教育法・図画工作科教育法・体育科教育法のうち2科目以上を含んで最低12単位修得すること
教科に関する科目	★国語概論[含書写] <2> ★★日本語学概論 <4> ★★書道 <4> ★★日本語学概論Ⅰ <2> ★★日本語学概論Ⅱ <2> ★★書道Ⅰ <2> ★★書道Ⅱ <2> ★社会科概論 <2> ★数学概論 <2> ★理科概論 <2> ★生活科概論 <2> ★音楽概論 <2> ★造形概論 <2> ★家政学概論 <2> ★体育概論 <2>		左の科目群から最低4単位修得すること

★：資格関係分野の単位の場合でも、副専攻の修了要件単位として算入できる。

★★：「日本語学概論（日本語学概論Ⅰ・日本語学概論Ⅱ）」「書道（書道Ⅰ・書道Ⅱ）」のいずれかをもって当該分野の所要単位（4単位）とすることはできない。これらの科目を履修する場合は、2科目両方（計8単位）を履修しなければならない。

初等教育学副専攻

2. 幼稚園コース

科目群名	科目名	◇内は単位	履修方法
●必修			
教育の基礎理論	教育学概論 <4>		左の必修科目をすべて修得すること (計 32 単位)
教職の意義等	★教職入門 <2>		
教育実習	★教育実習指導 3 (幼稚園) <1> ★教育実習指導 6 (幼稚園) <1> ★教育実習 3 <2> ★教育実習 4 <2>		
幼児教育課程	★幼児教育課程論 <2>		
幼児教育の方法	★保育方法論 <4> あるいは、★保育方法論 1 <2> ★保育方法論 2 <2> の両方		
幼児理解の理論・方法	★幼児理解[含教育相談] <2>		
保育内容研究	★保育内容研究[健康] <2> ★保育内容研究[人間関係] <2> ★保育内容研究[環境] <2> ★保育内容研究[言葉] <2> ★保育内容研究[表現] 1 <2> ★保育内容研究[表現] 2 <2>		
●選択必修			
教育の理念・思想・歴史	教育哲学 2 <2> 西洋教育史 2 <2> 日本教育史 1 <2> 日本教育史 2 <2> 日本教育史 <4> 西洋教育史 <4> 西洋教育運動史 <2> ★教育原理 <2>		左の 4 つの科目群それぞれから最低 1 科目修得し、合計で最低 8 単位修得すること
教育の社会的・制度的・経営的事項	教育社会学概論 1 <2> 教育社会学概論 2 <2> 教育行政学 <4> 教育行政学 2 <2> ★教育経営 <2>		
発達と学習の過程	教育心理学 <2> 発達心理学 1 <2>		
総合演習	人間学習原論[総合演習]<2> 人間学習 1 [総合演習] ~人間学習 1 2 [総合演習] <各 2>		
教科に関する科目	★国語概論[含書写] <2> ★数学概論 <2> ★生活科概論 <2> ★音楽概論 <2> ★造形概論 <2> ★体育概論 <2>		左の科目群から最低 4 単位修得すること

★ : 資格関係分野の単位の場合でも、副専攻の修了要件単位として算入できる。

- 副専攻指定科目 初等教育学副専攻の各コースの指定科目は、『開講科目一覧』の副専攻欄に「K1」（小学校コース）、「K2」（幼稚園コース）と記載された科目です。
- 教育実習履修要件 4 年次で教育実習の履修するためには、3 年次終了の時点で次ページの履修資格要件を満たしていなければなりません。教育実習要件を満たすためには、小学校コースの履修者は、小学校コースのカリキュラム表に挙げた科目以外に「教育課程方法論」あるいは「教育課程論」を履修しなければならないことに注意してください。
- 履修開始前の単位 副専攻履修開始前に履修した初等教育学副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。
- 履修上の注意
 - (1) 授業科目によっては、履修学年が指定されている場合があるので、別途細目のガイダンスに従ってください。
 - (2) 小学校コース履修者は、前述の最低履修単位数の他に、免許状共通科目として教職課程履修要項 202 ページに記載した科目の履修、および介護等体験が前提として求められます。

教育実習の履修資格要件（小学校）

科 目	教育実習履修資格要件
教育学概論	修得済であること
教育課程方法論 教育課程論	いずれか一方修得済であること
教育実習指導 2	修得済であること
道徳教育の研究 特別活動 生徒指導[含進路指導] 教育相談 教育哲学 2 西洋教育史 2 日本教育史 1 日本教育史 2 西洋教育運動史 教育原理	左の6つの区分の中から4区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること
教育行政学 2 教育社会学概論 1 教育社会学概論 2 教育経営	
教育心理学 発達心理学 1	
教育方法 教育メディア論 教育情報学 メディア教材開発	
人間学習原論[総合演習] 人間学習 1 [総合演習] 人間学習 2 [総合演習] 人間学習 3 [総合演習] 人間学習 4 [総合演習] 人間学習 5 [総合演習] 人間学習 6 [総合演習] 人間学習 7 [総合演習] 人間学習 8 [総合演習] 人間学習 9 [総合演習] 人間学習 10 [総合演習] 人間学習 11 [総合演習] 人間学習 12 [総合演習]	
国語科教育法[小学校] 社会科教育法[小学校] 算数科教育法 理科教育法 生活科教育法 音楽科教育法 図画工作科教育法 家庭科教育法 体育科教育法	3科目以上修得済であること

教育実習の履修資格要件（幼稚園）

科 目	教育実習履修資格要件
教育学概論	修得済であること
幼児教育課程論	修得済であること
教育実習指導 3	修得済であること
保育方法論、あるいは、保育方法論 1 と保育方法論 2 の両方 教育原理 教育哲学 2 西洋教育史 2 日本教育史 1 日本教育史 2 西洋教育運動史	左の6つの区分の中から4区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること
教育行政学 2 教育社会学概論 1 教育社会学概論 2 教育経営	
教育心理学、発達心理学 1	
人間学習原論[総合演習] 人間学習 1 [総合演習] 人間学習 2 [総合演習] 人間学習 3 [総合演習] 人間学習 4 [総合演習] 人間学習 5 [総合演習] 人間学習 6 [総合演習] 人間学習 7 [総合演習] 人間学習 8 [総合演習] 人間学習 9 [総合演習] 人間学習 10 [総合演習] 人間学習 11 [総合演習] 人間学習 12 [総合演習]	
幼児理解[含教育相談]	
領域：健康 保育内容研究 [健康]	2領域以上修得済であること
領域：人間関係 保育内容研究 [人間関係]	
領域：環境 保育内容研究 [環境]	
領域：言葉 保育内容研究 [言葉]	
領域：表現 保育内容研究 [表現] 1 保育内容研究 [表現] 2	

心理学副専攻

- 修了要件 心理学副専攻の修了要件は次のとおりです。
 - 次の必修科目を修得していること
「心理学概論」(4単位)
 - 心理学副専攻の指定科目の中から必修科目を含んで、関連分野の単位として、合計20単位以上修得していること

- 副専攻指定科目 心理学副専攻の指定科目は、『開講科目一覧』の副専攻欄に「L1」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

なお、心理学専攻開講科目のうち、**指定科目の対象外**となる科目は、次のとおりです。

◎開講されたすべての年度において対象外の科目

 - 心理統計法Ⅰ、心理統計法Ⅱ、
 - 心理学実験演習1、心理学実験演習2、心理学実験演習3、
 - 基礎情報処理技法、応用情報処理技法Ⅰ、心理学研究法1
 - 3年心理学演習(ただし、2005年度開講のHクラスは指定科目)
 - 実験心理学演習、発達心理学演習、発達臨床心理学演習

- 履修開始前の単位 副専攻履修開始前に履修した心理学専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できません。

- 履修上の注意 (1) 2年次からの3年間で修了認定に必要な20単位を修得できなかった場合、副専攻の履修を継続することはできません(副専攻履修中止の扱いとなります)。
(2) 必修の「心理学概論」の標準履修年次は2年次です。

英語英文学副専攻

- 修了要件 英語英文学副専攻の修了要件は、英語英文学副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、分野別に次の要件を満たすよう修得していることです。

1. 英語学・英語教育分野（修了要件単位合計：最低 22 単位）

科目群名	科目名	◇内は単位	修了要件
●必修			
英作文	英作文1 <2>、英作文2 <2>		左の必修科目をすべて修得していること（計6単位）
修了レポート	英語学・英語教育学副専攻修了レポート <2>		
●選択必修			
入門・概論	英語学入門 <4> 英語学概論 <4>		左の科目から最低4単位修得していること
2年英文演習・ 2年英文講義	2年英文演習1 2年英文演習1-1、同1-2、同2-1、同2-2 2年英文演習3-1、同3-2 2年英文講義1-1、同1-2		左の科目から最低2単位修得していること
3年演習	3年英語学演習1-1、同1-2、同2-1、同2-2 3年英語学演習3-1、同3-2		左の科目から最低4単位修得していること
4年演習	4年英語学演習1-1、同1-2、同2-1、同2-2 4年英語学演習3-1、同3-2		左の科目から最低2単位修得していること
特講類	英語学特講1～英語学特講5		左の科目から最低4単位修得していること

2. 英米文学分野（修了要件単位合計：最低 22 単位）

科目群名	科目名	◇内は単位	修了要件
●必修			
英作文	英作文1 <2>、英作文2 <2>		左の必修科目をすべて修得していること（計6単位）
修了レポート	英米文学副専攻修了レポート <2>		
●選択必修			
入門・概論	英文学史概説1 <2>、英文学史概説2 <2> 米文学史概説1 <2>、米文学史概説2 <2> 英文学入門 <2>		左の科目から最低4単位修得していること
2年英文演習・ 2年英文講義	2年英文演習4-1、同4-2、同5-1、同5-2 2年英文演習6-1、同6-2、同7-1、同7-2 2年英文演習8-1、同8-2 2年英文講義2-1、同2-2、同3-1、同3-2		左の科目から最低2単位修得していること
3年演習	3年英米文学演習1-1、同1-2、同2-1、同2-2、 3年英米文学演習3-1、同3-2、同4-1、同4-2、 3年英米文学演習5-1、同5-2、同8-1、同8-2、 3・4年英米文学演習の各科目（2005・2006年度開講）		左の科目から最低4単位修得していること
4年演習	4年英米文学演習1-1、同1-2、同2-1、同2-2、 4年英米文学演習3-1、同3-2、同4-1、同4-2、 4年英米文学演習5-1、同5-2、同8-1、同8-2、 3・4年英米文学演習の各科目（2005・2006年度開講）		左の科目から最低2単位修得していること
特講類	英米文学特講1 英米文学特講2-1、同2-2、同3-1、同3-2、 英米文学特講4-1、同4-2、同5-1、同5-2、 英米文学特講6-1、同6-2、同7-1、同7-2、 英米文学特講8-1、同8-2		左の科目から最低4単位修得していること

※「3・4年英米文学演習」から科目を選択した場合、3年演習と4年演習の単位は別に修得していなければならない

3. メディア・コミュニケーション分野（修了要件単位合計：最低 22 単位）

科目群名	科目名	◇内は単位	修了要件
●必修			
英作文	英作文1 <2>、英作文2 <2>		左の必修科目をすべて修得すること（計8単位）
入門・概論	メディア・コミュニケーション入門1 <2>		
修了レポート	メディア・コミュニケーション副専攻修了レポート <2>		
●選択必修			
2年英文演習・ 2年英文講義	2年英文演習10-1、同10-2、 2年英文演習11-1、同11-2		左の科目から最低2単位修得すること
3年演習	3年メディア・コミュニケーション演習1-1、同1-2、 3年メディア・コミュニケーション演習2-1、同2-2、 3年メディア・コミュニケーション演習3-1、同3-2		左の科目から最低4単位修得すること
4年演習	4年メディア・コミュニケーション演習1-1、同1-2、 4年メディア・コミュニケーション演習2-1、同2-2		左の科目から最低2単位修得すること
特講類	メディア・コミュニケーション特講1～6、 メディア・コミュニケーション特講7-2		左の科目から最低4単位修得すること

●副専攻指定科目 英語英文学副専攻の各分野の指定科目は、『開講科目一覧』の副専攻欄に「M1」（英語学・英語教育学分野）、「M2」（英米文学分野）、「M3」（メディア・コミュニケーション分野）と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

●履修開始前の単位 副専攻履修開始前に履修した英語英文学専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

●履修上の注意

- (1) 次の科目は年次指定科目です。
 - 2年英文演習・2年英文講義：2年次指定科目
 - 入門・概論科目の指定科目：2年次指定科目
 - 英作文1、英作文2：3年次指定科目
 - 3年演習の指定科目：3年次指定科目
 - 4年演習の指定科目：4年次指定科目
 ただし、主専攻における履修の都合上、指定された学年に履修できない副専攻科目がある場合は、英語英文学科の承認を経て指定以外の学年に副専攻科目の履修を許可します。
- (2) 他学科・他専攻の開講科目で本副専攻分野の指定科目として認定できるものがある場合は、開講年度の初頭に公示します。
- (3) 副専攻修了レポートは英語3,000語程度とし、4年次後期の学期末のレポート提出期間中に教務課に提出してください。レポートの提出方法については、教務課提出のレポートに準じます。

●募集・選抜方法

- (1) 本学科の副専攻は「英語学・英語教育学分野」「英米文学分野」「メディア・コミュニケーション分野」の3分野からなり、分野別に募集します。複数の志望する分野がある場合は第3希望まで指定できます。
- (2) 定員を超過した場合は、小論文（英文）および面接により決定します。

多文化宗教共生副専攻

●履修の目的

本副専攻は、学科横断的研究を通して、いわゆる「宗教」に限定せず、文化のうちに多様な形で含まれている宗教性・精神性（スピリチュアリティ）についての理解を深め、また、その継承・発展・交流・共生のあり方を明らかにすることを目指すものです。

●修了要件

多文化宗教共生副専攻の修了要件は、次のとおりです。

□ 次の基幹科目の中から最低1科目修得していること

開講学科専攻	基幹科目
哲 学	宗教思想史Ⅰ〈2〉 宗教思想史Ⅱ〈2〉 宗教思想史〈2〉（2007年度まで開講）
人間関係	比較文化宗教学1〈2〉 比較文化宗教学2〈2〉 比較文化宗教学〈4〉（2005年度まで開講）
国際交流	アジア文化論〈4〉
史 学	日本文化史〈4〉

※〈〉内は単位

- 「副専攻修了レポートA1」を修得していること（2単位）
- 多文化宗教共生副専攻の指定科目（基幹科目・修了レポートも含む）のうち、主専攻（自らが所属する専攻）以外の専攻が開講する科目の中から、関連分野の単位として、合計20単位以上修得していること

●副専攻指定科目

多文化宗教共生副専攻の基幹科目は、『開講科目一覧』の副専攻欄に「A1」と記載しています。その他、各年度ごとに推奨科目を提示しますので、履修計画の参考にしてください。

●履修開始前の単位

副専攻履修開始前に修得した単位を、副専攻の単位に算入することはできません。

●履修上の注意

- (1) 「基幹科目」とは本副専攻の基本的な視点を養うための科目です。
- (2) 多文化宗教共生副専攻の修了要件単位に主専攻の科目の修得単位を含めることはできません。
- (3) 副専攻修了レポートは、5,000字～6,000字とし、4年次前期・4年次後期のいずれかの所定のレポート提出期間中に本副専攻担当教員に提出してください。なお、提出しようとする学期のはじめに、「副専攻修了レポートA1」を履修登録することが必要です。
- (4) 履修計画および副専攻修了レポートの題目は、毎年所定の時期に提出しなければなりません。提出期間・方法等については、別途定めて掲示します。
- (5) 履修計画の作成、副専攻修了レポートの執筆等に関する相談・指導については、本副専攻担当教員に随時申し出てください。

ジェンダー学副専攻

●履修の目的

本副専攻は、人間としての自己を確立するために、女性の生き方を見つめ直すとともに、既存の学問や、社会、文化、政治、経済などを「ジェンダー」（生物的な性差ではなく、社会的・文化的な性差のこと）という視点から分析・考察し、平等で公正な世界の構築に貢献できる能力を身につけることを目指すものです。

●修了要件

ジェンダー学副専攻の修了要件は、次のとおりです。

- 必修科目「ジェンダー学1」を修得していること（2単位）
- 選択必修の科目群（【分野2】～【分野6】）の科目のうち、主専攻（自らが所属する専攻）以外の専攻が開講する科目の中から、関連分野の単位として、3分野以上最低18単位修得していること

※【分野2】～【分野6】の科目は開講年度ごとに指定されます。過去4年間の指定科目は次ページのとおりです。それ以前の指定科目については、それぞれの年度の『学生便覧』・『履修要覧』の「ジェンダー学副専攻」のページを参照してください。

●副専攻指定科目

ジェンダー学副専攻の指定科目は、『開講科目一覧』の副専攻欄に「A2」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

●履修開始前の単位

2004年度にジェンダー学副専攻の2005年度指定科目の中で修得した科目がある場合には、その単位を副専攻修得単位として算入することができます。

また、2003年度、2004年度に開講された副専攻基礎科目の中で、単位修得した科目がある場合には、その単位を次表に示された分野に読み替えて、副専攻修了単位として算入することができます。

▼ 2003年度開講科目

科目名	読替え分野
ジェンダー論入門1	分野3
ジェンダー論入門2	分野3
ジェンダー論入門3	分野6

▼ 2004年度開講科目

科目名	読替え分野
ジェンダー論入門1	分野4
ジェンダー論入門2	分野3
ジェンダー論入門4	分野4
ジェンダー論入門5	分野6
ジェンダー論入門6	分野3
ジェンダー論入門7	分野2

●履修上の注意

- (1) 人数制限のある科目の履修希望者は、4月のオリエンテーション期間中の所定の期日までに当該授業科目を開講する研究室で手続きを済ませるようにしてください。なお、希望者が所定の人数を超えた場合、副専攻関連科目については当該コース副専攻生を優先し、学科専攻提供科目については専攻生を優先します。
- (2) 2006年度以降入学者にとって、「女性とキャリア形成」「ジェンダー学6-1」（2006～2008年度開講）は、全学共通科目総合現代教養指定領域の科目としても認められます。

ジェンダー学副専攻指定科目

分野	科目名	単位	指定年度				開講専攻
			2008	2007	2006	2005	
●必修							
【分野1】	ジェンダー学1	2	○	○	○	○	副専攻関連科目
●選択必修							
【分野2】 ジェンダーの 表象論	ジェンダー学2-1	2	○	○	○	○	副専攻関連科目
	ポップカルチャーとジェンダー	2	○				総合現代教養(自由領域)
	近代文学研究I	2	○	○	○		日本語日本文学
	近代文学研究VII	2	○	○			日本語日本文学
	児童文学研究I	2	○	○	○		日本語日本文学
	日本文学史概説III	4				○	日本語日本文学
	近代文学特講III	4				○	日本語日本文学
	2年英文演習11-1	2	○		○	○	英語英文学
	メディア・コミュニケーション特講5	4	○	○			英語英文学
	メディア・コミュニケーション特講6	4	○	○			英語英文学
【分野3】 ライフコースの ジェンダー論	ジェンダー学3-1	2	○	○	○	○	副専攻関連科目
	ジェンダー学3-2	2			○	○	副専攻関連科目
	女性とキャリア形成	2	○	○			総合現代教養(指定領域)
	家族社会学1	2	○	○	○	○	人間関係
	家族社会学2	2	○	○	○	○	人間関係
	職業社会学2	2	○	○	○		人間関係
	産育の社会学	2		○	○	○	人間関係
【分野4】 人間形成と 役割規範の ジェンダー論	ジェンダー学4-1	2	○	○	○	○	副専攻関連科目
	中国近世文化史	2		○			史学
	アメリカ史	4	○				史学
	教育学演習2-3	2				○	教育学
	教育学特講10	2	○	○	○	○	教育学
	生涯学習概論	2	○	○			教育学
	発達心理学特講1	2		○	○	○	心理学
	発達心理学特講3	2	○				心理学
臨床心理学特講6	2	○	○	○	○	心理学	
【分野5】 グローバル化と ジェンダー	ジェンダー学5-1	2	○	○	○	○	副専攻関連科目
	ジェンダー学5-2	2	○	○	○	○	副専攻関連科目
【分野6】 制度・政策の ジェンダー論	ジェンダー学6-1	2	○	○	○	○	副専攻関連科目
	ジェンダー学6-2	2		○	○	○	副専攻関連科目
	ジェンダー学6-3	2	○				副専攻関連科目
	発達心理学特講8	2	○	○	○	○	心理学

※指定年度欄に○がない場合、その年度に当該科目が開講されていても副専攻修了要件単位に含めることはできない

ボランティア研究副専攻

- 履修の目的 本副専攻は、ボランティア活動とそれを必要とする社会について理論的・体系的に研究することによって、「共生」社会の市民として、広い視野に立ってボランティア活動を組織・運営することのできる能力を身につけることを目指しています。

- 修了要件 ボランティア研究副専攻の修了要件は、次のとおりです。
 - 次の必修科目を修得していること（計8単位）
 - 「ボランティア研究概論」（2単位）
 - 「ボランティア研究演習Ⅰ」（2単位）
 - 「ボランティア研究演習Ⅱ」（2単位）
 - 「ボランティア研究演習Ⅲ」（2単位）
 - 選択必修科目から合計12単位以上修得していること
ただし、主専攻（自らが所属する専攻）が開講する指定科目については、4単位まで副専攻修了要件単位に算入することができる

- 副専攻指定科目 ボランティア研究副専攻の指定科目は、『開講科目一覧』の副専攻欄に「A3」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

- 履修開始前の単位 副専攻履修開始前に履修したボランティア研究副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。なお、次ページの表の指定年度2007の欄に○の付いた科目を2007年度に修得した場合は、その修得単位を副専攻の単位に算入できます。
※2006年度以前開講科目の修得単位は副専攻の単位に算入できません。

- 履修上の注意 (1) 必修科目は次の順に履修してください。
 - ① 原則として、
 - ボランティア研究概論⇒ボランティア研究演習Ⅰ
 - の順に履修する
 - ② 「ボランティア研究演習」は、必ず
 - ボランティア研究演習Ⅰ⇒ボランティア研究演習Ⅱ⇒ボランティア研究演習Ⅲ
 - の順に履修するなお、異なるボランティア研究演習を同時に履修することはできません。
- (2) 2年次に副専攻の履修を開始した場合の必修科目の標準履修年次は次のとおりです。
 - ボランティア研究概論 ：2年次前期
 - ボランティア研究演習Ⅰ：2年次後期
 - ボランティア研究演習Ⅱ：3年次前期
 - ボランティア研究演習Ⅲ：3年次後期履修上の注意(1)にあるとおり、必修科目は履修順序が定められていますので、3年次に履修を開始した場合や留学を計画している場合は、必ずしもこの年次に修得できません。

ボランティア研究副専攻指定科目

開講専攻	科目名	単位	指定年度		備考
			2008	2007※	
●必修					
副専攻関連科目	ボランティア研究概論	2	○		
	ボランティア研究演習Ⅰ	2	○		
	ボランティア研究演習Ⅱ	2	○		
	ボランティア研究演習Ⅲ	2	○		
●選択必修					
全学共通科目 総合現代教養	国際平和と開発援助	2	○	○	
	地球化時代のNGO	2	○	○	
	人間の安全保障	2	○	○	
	生命と人生の倫理	2	○	○	
	児童福祉論	2	○	○	
	社会福祉論	2		○	
	聖心スピリットと共生	2	○		
副専攻関連科目	ジェンダー学5-1	2	○	○	
	ジェンダー学5-2	2	○	○	
日本語日本文学	日本語教育入門	2	○	○	
史学	国際関係史Ⅰ	2	○	○	
人間関係	社会心理学特講1 1	2	○	○	
	若者の社会学	2	○	○	
	現代社会と法	2	○	○	
	不平等の社会学	2	○	○	
	差別と共生の社会学	2	○	○	
	福祉社会学1	2	○		
	福祉社会学2	2		○	
国際交流	国際コミュニケーション論	4	○	○	
哲学	哲学・倫理学特講Ⅱ	4	○		
教育学・ 初等教育学	教育学特講9	2	○	○	
	障害者教育・福祉概論	2	○	○	
	教育社会学概論1	2		○	
	教育社会学概論2	2	○	○	
	人間学習8 [総合演習]	2	○	○	
	人間学習10 [総合演習]	2	○		
心理学	臨床心理学特講6	2	○	○	